

# 福島県における小麦「夏黄金」の栽培法

## 「夏黄金」の特徴

- ◆ **パン・中華めん用の寒冷地向けの小麦品種**
- ◆ **成熟期は「中生の晩」**（「ゆきちから」並）
- ◆ **耐寒性があり、根雪期間100日までの地域で栽培可能**  
（100日超える地域は雪腐病防除が必要）
- ◆ **穂が赤褐色**  
→ 目視による確認の他、出穂後の積算気温から収穫適期を判断！

## 生育量・収量の目安

目標収量	450～500kg/10a
稈長	80～90cm
穂長	8～9cm
穂数	500～550本/m <sup>2</sup>
着粒数	25～30粒/穂
千粒重	38～42g
子実タンパク含量	12%以上
子実の硝子率	80%以上

## 基本的な栽培法

- ◆ **播種法（ドリル播き）**  
条間：20～30cm  
播種量：6～8kg/10a
- ◆ **施肥量（10aあたり）**  
基肥：窒素10kg、リン酸10kg、カリ10kg  
追肥（1回目）：窒素3kg（幼穂形成期）  
追肥（2回目）：窒素6kg（出穂期）
- ◆ **土づくり（10aあたり）**  
石灰：80～100kg  
堆肥：1.0～1.5t  
ようりん：30～40kg（黒ボク土の場合）

月	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7									
旬	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上									
生育ステージ							幼穂形成期			出穂期			成熟期							
管理作業	ほ場準備 施肥		播種 土壌処理型除草剤散布			麦踏み 1回目			麦踏み 2回目			追肥			赤かび病防除			収穫		
生育・作業	越冬期間中の生育状況			幼穂形成期の生育状況			出穂期の様子			成熟期の様子			早すぎる ← 収穫適期 → 刈り遅れ							
管理のポイント	苗立数の確保				茎数の確保・湿害防止						病害虫の防除			適期収穫・丁寧な乾燥						
	<b>ほ場準備</b> ◎排水対策 ・ほ場周囲に排水溝（明きょ）を設置 ・ほ場内に弾丸暗きょを施工  ◎土壌改良 ・散布量目安：石灰80～100kg/10a ・小麦の適性pHは5.5～6.5程度のため、酸度矯正が必要である				<b>施肥体系</b> 「出穂期追肥をしっかりと行うことで、 <b>子実タンパク質含量を確保する</b> 」 ◎施肥量（10aあたり） ・基肥：10kg(窒素成分) ・追肥（幼穂形成期）：3kg（窒素成分） ・追肥（出穂期）：6kg（窒素成分）  【参考：基肥に緩効性肥料を用いた場合】 ◎施肥量（10aあたり） ・基肥(緩効性肥料)：13kg(窒素成分) ・追肥（出穂期）：6kg(窒素成分)						<b>赤かび病防除</b> ◎防除回数 基本3回以上 ◎防除時期 1回目は開花期頃（出穂期の7～10日後） 2回目以降は、前回防除の7～10日後			<b>収穫</b> ◎機械収穫開始の目安  <b>出穂後の積算温度900℃、子実水分30%</b> ※穂が概ね褐変し、穂首がやや湾曲する時期 ※子実に爪跡が少し残る程度の硬さ						
	<b>播種</b> 「11月上旬播種することで、 10月中旬播種よりも <b>収量が30%以上高まる</b> 」 【要因・効果】 ・一穂稔実粒数と千粒重の増加 ・稈長が短くなり、倒伏を抑制  ◎播種時期 10月中旬～11月上旬 （晩限：11月中旬） ◎播種量（10aあたり） 6～8kg				<b>麦踏み</b> 1回目：分けつ始めの4葉期頃（12月頃） 2回目：茎立ち前（2月下旬頃まで）  越冬前の踏圧 → 耐寒性の強化 → 徒長の抑制 越冬後の踏圧 → 早期の茎立ち防止						<b>乾燥・調製</b> ◎乾燥機への張り込み 子実水分30%以上の場合は、40℃以下の低温で乾燥を開始し、子実水分が下がってきたら、送風温度を上げて乾燥させる ◎仕上げ子実水分：12.5% ◎調製の篩目：2.5mm（推奨）									